

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期の経済情勢は、米国では緩やかな回復が続いたものの、欧州財政危機への不安が世界経済に影響を及ぼし、アジアでも中国をはじめとして景気の拡大テンポが鈍化するなど、世界経済は減速感が広がりました。一方国内経済は、復興需要等を背景として景気は緩やかに持ち直しつつも、円高や海外景気の減速など、不透明な環境が続きました。

このような状況の下、当社グループは、当期を最終年度とする三カ年の中期経営計画「ステージアップ2012ー新たなる挑戦ー」の基本方針である「持続的成長を可能にする収益基盤の確立」「財務構造改革の継続」「地球環境問題への対応と貢献」に基づき、市場や需給環境の変化にスピード感を持って対応するとともに、各事業課題の解決に向け、取り組んでまいりました。

この結果、当社グループの連結売上高は前年同期に比べ18億5千5百万円増の1,512億6千万円、連結営業利益は26億5千4百万円減の60億7千6百万円、連結経常利益は24億6千6百万円減の58億8千万円、連結四半期純利益は26億6千5百万円減の23億4千4百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	連結四半期純利益
当第1四半期	1,512億円	60億円	58億円	23億円
前年同期	1,494億円	87億円	83億円	50億円
増減率	1.2%	△30.4%	△29.5%	△53.2%

なお、当社グループの第1四半期は、化成品・樹脂及び機能品・ファイン製品の製造工場の定期修理が第1四半期に集中すること、建設資材セグメントの主力製品であるセメントの需要が下期に偏ること、機械製品の売上計上が年度末に集中することなどの季節要因による影響を受け、他の四半期に比べ低水準となる傾向があります。

セグメント別の概況は以下のとおりです。

#### 化成品・樹脂セグメント

ナイロン原料のカプロラクタムは、世界的な景気の減速や他社新設備稼働開始に伴う中国市場での需給緩和により、スプレッド（製品と原料の値差）は好調だった前年同期に比べ大幅に縮小しました。ポリブタジエン（合成ゴム）、ナイロン樹脂はエコカー補助金の効果などもあり、自動車向けを中心として堅調でした。工業薬品も総じて堅調に推移しました。

この結果、当セグメントの連結売上高は前年同期に比べ9億5千万円増の544億1千7百万円、連結営業利益は44億9千5百万円減の15億8千万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当第1四半期	544億円	15億円
前年同期	534億円	60億円
増減率	1.8%	△74.0%

#### 機能品・ファインセグメント

電子情報材料分野での需要回復遅れにより、薄型テレビ向けフィルムを中心とするポリイミドについては出荷が伸び悩み、民生向けを中心とするリチウムイオン電池用電解液や太陽電池生産部材向けを中心とするセラミックスなど、多くの機能性材料で出荷が低調でした。一方、リチウムイオン電池用セパレーターは、車載向け出荷の伸長により好調でした。ファインケミカル製品は、総じて出荷は堅調ながら円高の影響を受けました。

この結果、当セグメントの連結売上高は前年同期に比べ3億9百万円減の156億2千8百万円、連結営業利益は8億1千4百万円減の6億1千2百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当第1四半期	156億円	6億円
前年同期	159億円	14億円
増減率	△1.9%	△57.1%

#### 医薬セグメント

自社医薬品の抗アレルギー剤を中心として、原体・中間体の販売は順調に伸長し、ロイヤルティ収入も増加しました。

この結果、当セグメントの連結売上高は前年同期に比べ6億3千8百万円増の24億2千5百万円、連結営業利益は6億6千4百万円増の7億5千6百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当第1四半期	24億円	7億円
前年同期	17億円	0億円
増減率	35.7%	721.7%

#### 建設資材セグメント

セメント・生コン及び建材製品の出荷は、マンション・住宅着工や企業の設備投資が持ち直すとともに、復興需要も出始めたことから、前年同期を上回りました。各種廃棄物の原燃料へのリサイクルも堅調でした。カルシア・マグネシア製品の販売は、自家発電設備の排煙脱硫向けの出荷は堅調でしたが、電子情報材料分野の需要回復遅れの影響を受け、全体では前年同期を下回りました。

この結果、当セグメントの連結売上高は前年同期に比べ7億4千3百万円増の505億7千6百万円、連結営業利益は5億2千3百万円増の17億5千2百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当第1四半期	505億円	17億円
前年同期	498億円	12億円
増減率	1.5%	42.6%

#### 機械・金属成形セグメント

自動車産業向けを中心とする成形機は、新機種の市場への浸透が進み、受注は北米向けを中心に増加しました。堅型ミルや運搬機等の産業機械は、足元の出荷は堅調ながら、受注は円高や国内外メーカーとの価格競争の激化等により厳しい状況が続きました。製鋼品は、市場の需要低迷及び円高の影響を受け、出荷は低調でした。

この結果、当セグメントの連結売上高は前年同期に比べ2億7千8百万円減の153億2千2百万円、連結営業利益は6億1千4百万円増の6億5千4百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当第1四半期	153億円	6億円
前年同期	156億円	0億円
増減率	△1.8%	—

#### エネルギー・環境セグメント

石炭事業は、販売炭の出荷、コールセンター（石炭貯炭場）の取扱い数量とも、電力、化学、繊維向けを中心に堅調でした。電力事業は、I P P発電所にかかる補修費が前年同期に比べ減少した一方、売電価格は電力需給逼迫により上昇しました。

この結果、当セグメントの連結売上高は前年同期に比べ29億3千3百万円増の164億6千9百万円、連結営業利益は8億3百万円増の11億5百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当第1四半期	164億円	11億円
前年同期	135億円	3億円
増減率	21.7%	265.9%

#### その他のセグメント

その他の連結売上高は前年同期に比べ3億2百万円減の63億2千6百万円、連結営業利益は7千2百万円増の2億5千8百万円となりました。

項 目	連結売上高	連結営業利益
当第1四半期	63億円	2億円
前 年 同 期	66億円	1億円
増 減 率	△4.6%	38.7%

#### (2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期末の総資産は前年度末に比べ、受取手形及び売掛金が68億9千3百万円減少しましたが、商品及び製品などのたな卸資産が95億9千8百万円増加したことなどにより流動資産が109億1千万円増加し、有形固定資産が41億7百万円増加した結果、159億3千8百万円増加し6,809億3百万円となりました。

負債については、有利子負債が54億3千1百万円増加し、また賞与引当金が34億1千8百万円増加したことなどにより、122億9千2百万円増加し4,528億5千万円となりました。

純資産は、剰余金の配当により利益剰余金が50億3千5百万円減少しましたが、四半期純利益により利益剰余金が23億4千4百万円増加し、また為替換算調整勘定が68億6千1百万円改善したことなどにより、36億4千6百万円増加し2,280億5千3百万円となりました。

#### (3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年5月10日に発表しました連結業績予想に変更はありません。